



支那事變に於ける日本刀の威力

(昭和13年9月3日日本鐵鋼協會講演會講演)

蒔田宗次

THE SUPERIORITY OF THE JAPANESE SWORD AS DEMONSTRATED
IN THE PRESENT SINO-JAPANESE FIGHTING

Soji Maita, Dr. Eng.

SYNOPSIS:—Participated in work of the party engaging specially in the repair of Japanese swords in the front, the author observed the superiority of Japanese swords in the light of the present Sino-Japanese fighting.

It is a well-acknowledged fact that the Japanese sword has an excellent sharpness. Its splendid effect has invariably been shown in action at the present crisis, there being many instances to be quoted from numerous exploits in the actual occasions.

A large number of Japanese swords being used in the front, sword makers are naturally very busy at present.

We know the physical effect of the Japanese sword from its sharpness as well as the user's skill. Besides the most important matter is our strong faith for the Japanese sword. Consequently, the mental effect of it against the enemy is very powerful with the action of the "Japanese spirit" in it.

Therefore, we observe the Japanese sword not only materially but also spiritually. In short, the Japanese sword is considered to be a spiritual material, which stands to guard strongly and to prosper eternally the Land of Our Mikado.

北支中支の戦地を巡歴見聞した所を基にしまして、茲に掲げた題目のお話を此の席で申上げる機会をつくつて下され、且満堂各位の御清聴を得ることを光榮に存じます。

1. 支那の軍刀 日本刀の御話に入る前に支那の軍刀について申し上げます。

戦に敗けて逃げる支那兵が捨てて行く軍器や、戦捷の皇軍が分捕する軍用品は夥しいもので、積んで山の様でありました。

南京城に於きまして、兵器部長の將校に導かれて文字通りに山なす分捕軍器を觀せて戴いた其内で、眼に止まりましたのは支那軍刀に種々の形のあることです。

私は軍の御許しを得て此等の軍刀を其處に列べて撮影しました寫眞が第1圖～第3圖であります。

第1圖 の様な兩刃の直劍があります。之は突き刺す機能を有て居ります。打ち截りにも使へますが實戦の場合に抜いたまゝで行動するに不便があります。

第1圖2 は日本で薪木等を打切るに用ゐる鉈の形に似て居りまして、夫れの大きなもので肉も厚くて重い。其特徴は切先が前方に曲て突起になて居て、物に打込んだとき刃の缺けるのを防ぐ用になりますし、又打込んで引つ掛ける用にもなります。人間を薪と同様に腕力と重みで擲き

割らうとするのでありませう。斯様に鈍大な武器は一撃やり損つたら技に隙ができるでせう。

第2圖4 は一番多數に用ゐられて居る青龍刀であります。實物は之でありまして(實物を示す)吾々の見馴れたものです。重くて物打の所に重みと力が掛て切れ味は良くないから、物を截り離すといふよりも物を打割るといふ働きを致します。又其運用も大まかなものになります。

第2圖5 敵に能く双先の届く様に刀の寸を延ばしたのは第2圖の5であります。長いから細くなつておりまして物打はやはり廣い。

第2圖6 は物打のふくらが無くなって刀の鏢許から切先に向て漸次狭くなつてゐて、日本刀の形に近付いて來て居ります。

第1圖3 二本の同じ大きさの刀を一つの鞘に仕込んだもので、鏢はどちらも半圓で、兩方を鞘に收めると一つの圓になります。此の刀身は薙刀の形に近い。驚いたのは其肉の薄いことで、柄を持って横に打振るとヘラヘラと動く程のものであります。之は兩刀を閃かして空威勢を示すのでありませう實用にはなりません、能く支那人の氣質を反映してゐるものと想はれます。

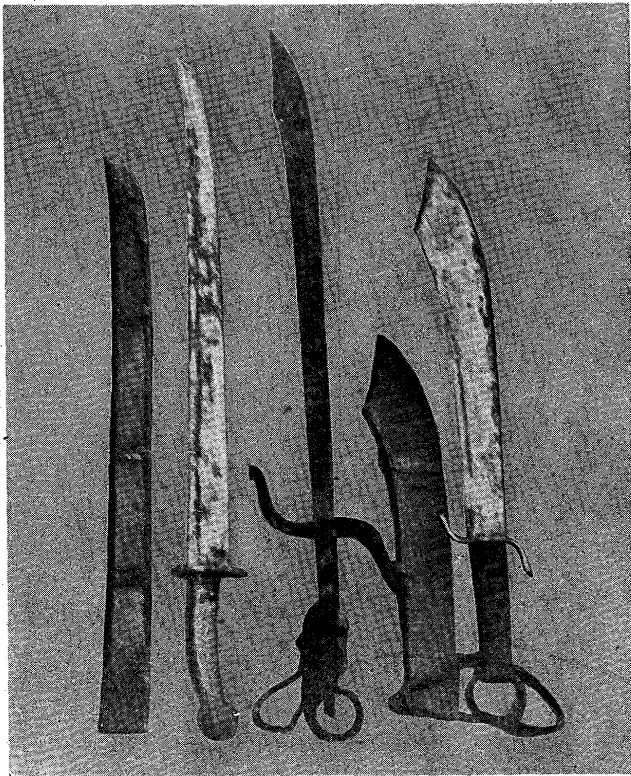
斯様に並べた一列は刀の變遷順序を大體に示してゐるも

第1圖 支那軍刀



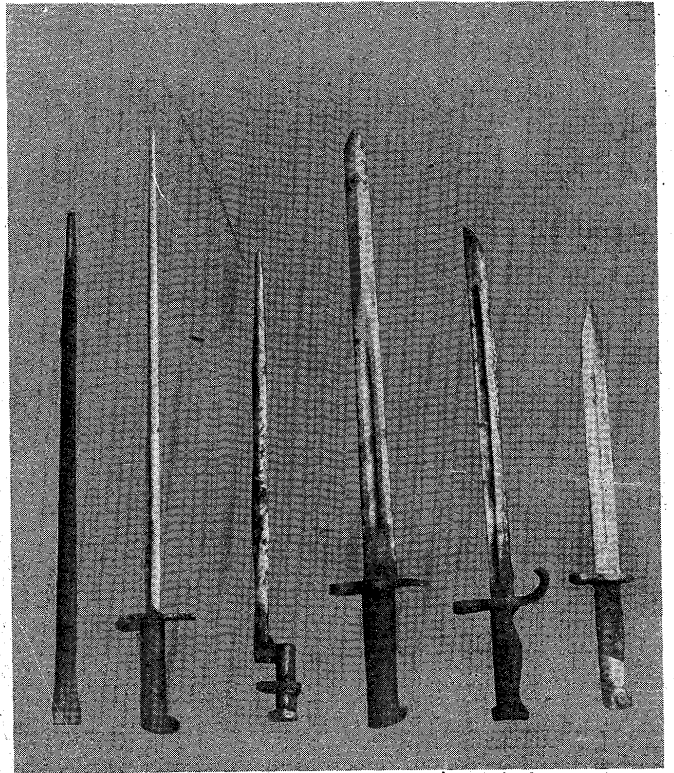
↑ 3 ↑ 2 ↑ 1

第2圖 支那軍刀



のであります。我が邦でも古い時代には兩刃の直劍でありましたが夫が片刃の直刀となり、遂には反りのついた日本刀となったものであります。活用して見て自ら都合の良い

第3圖 支那銃劍



形や良い品質に改まって行くのであります。

第3圖は支那軍使用の銃劍各種で孰れも外國形式のものであります。

支那軍刀の鐵質を觀まするに何れも鐵塊を素延べしたものでありまして、其刃味の鈍いことは申すまでもありません。

之で支那軍が如何なる支那刀を以て、正義の皇軍に刃向つて居るかが御分りと存じます。支那人相互の戦ならば此の鈍刀どうして宜しいでありませうけれども、精銳無比の日本刀の前に支那兵が積極的に白兵を以て寄り附かれないのは當然のことと存じます。

1. 私の任務 私の立場を申し上げます。此度私が支那戦地を巡りましたのは3月4月の候でありました。

出發の3日前、突然に支那戦地行の團隊に加はらないかとの話が出ましたので、急遽旅装を整へ3月19日朝、栗原彦三郎氏を團長とする軍刀修理團の一員となって東京驛を出發致しました。

此の軍刀修理團といふのは戦ひの現地に出て行きまして痛んだ軍刀を再び使用の出来る様に無料で修理をするのでありまして、戦場の軍隊を慰問する私設の奉仕團隊であります。

此の軍刀修理團は昨年の9月に始めて第1班が出て1ヶ



月計りで使命を了へて歸り、次に第2班第3班……と次から次へと2—30人づきの團員が入り代り、渡支致して居りますが、唯今は第10班が從軍中であります。此の擧に對し、軍部の方では陣中慰問奉公至極のものとして非常に歡んでゐられます。

私は其第6班に参加して北支方面を巡り、續いて第7班に加はつて中支方面に及んだのであります。

私の任務としては、軍用の日本刀が戰地に於て如何様に役立つて居るかといふ點の探究でありまして、公には軍刀機能調査顧問といふしかつめらしい軍屬としての任命を蒙たのであります。

斯る重任は固より淺學の私には過分とは思ひましたが、之も非常時に於ての國に報ゆる萬分の一と心得まして努力致したいと存じた次第であります。

3. 道程 私の参加しました一行の第6班、次に第7班は何れも30名計りでありまして、東京、關、京都、大阪、廣島、其他各地方から應募した、刀鍛冶、研師、鞘師、柄卷師等技術者の有志より成立て居りました。

道行きの大略は、東京を出發した一行は神戸から船に乗て大連を経て天津に上陸致しました。此處からが今回の戰跡になります。夫から北京で

要務を果し、之からは更に小班に分かれ、軍部の御指圖に従て戰地の各方に向ひました。私が團長と俱に濟南に向ひました時分に此の邊は敗殘兵の夜襲があるので鐵道沿線は、物々しい警戒振りでありまして土囊、柵、塹壕、トーチカ等の戰の跡が生々しく見えました。昨日は破壊鐵道修理の爲に汽車は數時間遲着したとか、黄河に懸る橋を破壊しようとして敵の飛行機は時々襲來するとかいふ事を耳

にしました。戰地の汽車の運行や停車場の仕事は凡て吾が軍隊が司てゐるのでありますから、戰地の全面に亙り延々たる長い所の鐵道を守る皇軍だけでも人數は夥しいものであります。

當時未だ徐州が陥落してゐないので、中支に行くには大廻りをして青島に出ました。

青島も此の度の戰に關係ありまして、支那側が澤山の船を沈めて港を閉塞してあつたのを、我が軍に依て航路が漸く開けたので、此の地では大に祝賀會を行つてゐる時でありました。

此の港口の開いた第1日に青島から船で上海に渡り、第7班に参加しました。夫れから崑山では敵の砲聲を聞き、蘇州を経て陥落後日尙淺い南京に着きました。

第7班の分班は第1線近くの地に向ひました。私は踵を廻らして上海から船で歸國の途についたのであります。

4. 刀匠 明治9年に廢刀令が出ましてからは、日本刀は箆筒長持の内に收まり、刀鍛冶は他に轉業してしまひ研師は刀の保存手入の爲尙必要なので少しは残り續けて業を営みましたが、鞘卷師などは蔭を潜めてしまひました。

軍隊の武器は洋式になつて軍人は洋刀を腰に帶ぶことになりました。

日清の戰爭でも、日露の戰爭でも。又歐洲大戰の日獨戰爭に於きましても、日本刀を使った軍人もあり刀の功績もありましたけれども其刀の使用數は少なく、先づ在り合せの日本刀を用ふる程度で濟んだのでありまして、時代の波に沈んだ刀匠を呼び起して新に日本刀を作るまでには至らなかつたのであります。

其後彼の上海事件、滿洲事變に於きましては、日本刀が



斷截兇不折不撓
光銳凜々勢威豪
由來正氣凝何處
世界無比日本刀

和魂刀

光風

實際的活用に有効なことを強く感じるようになりました。それからは近代的の種々飛道具や、高級の攻道具の用ひられるにも係らず、やはり吾が日本刀が有効であるといふ自覚が強く促がされて來ました。

明治初年以來輸入した西洋文物の大方が解た昭和の御代の現今に於きまして世界各國が日本の文化に着眼するやうに成りました。之と同時に、我が國の凡ての長所を振り反て觀て、時代に適する様に益々之を發揮せしむる氣運に向て來ました。而して今や、我が國民は此の大勢の進展に努力せなければならぬ秋となつたのであります。

廢刀令以後六拾餘年間、刀匠を業とする人は極めて稀で日本刀を新作することは寥々たるものでありましたが、明治大帝は日本刀の保存につき大御心を寄せせられ有難い御下賜金の御沙汰を下されたのであります。茲に於て刀工の養成が再び行はれるやうになつたのであります。

軍部では日本刀の鍛造供給に心を寄せられて、昭和8年頃から靖國神社境内に日本刀鍛錬所を設けられ、昭和8年からは日本刀造りの軍刀を制定せられました。

昭和9年帝國美術展覽會では日本刀をも美術工藝品として出品を認めることになりました。

茲に到て注目すべきは大日本刀匠協會の主催に依て昭和10年日本刀の新作品の第1回展覽會が開かれたことでもあります。

大日本刀匠協會と申しますのは、栗原彦三郎氏の熱誠盡力に依り、日本全國の刀匠及び關係者を網羅して、昭和10年に出來たる會であります。

氏は青年時代から練り上げた刀鍛造の腕前を以て、又同會の理事長として日本刀復興の實績を著しく挙げられつゝあります。

此の新作刀第1回展覽會の開かれた當時出品の募集に應じた刀匠が100餘人もあつたのには驚かざるを得なかつたのでありまして、翌昭和11年には其第2回展覽會が開かれて、其出品成績は前回よりも盛になり、日本刀新作の熱は益々高まりました。

斯様にして日本刀復興の氣運が濫醸せられて來た所で、其翌昭和12年8月に今回の支那事變が勃發致しましたのは何んと我が國の武運の良いことではありませんか。

今日では刀匠2百餘名、之に附帶して研ぎ鞆造りの職に従事する人が1,000餘名になりまして、新作日本刀を從軍者に供給出来ることになりました。

今回の支那從軍にあたり、北支で某大尉は、日本刀を四振戰地へ携へて來たが1本は双毀れになつたから今其修理をたのむ、第2本は今腰に在る。第3本は戰友の代へ刀に貸した。第4本は豫備にしてあるといつて居りました。小倉市の某氏は甥が兵卒で出征するので日本刀2本を持たせてやつたと満足げに言て居りました。

斯様に將校を始め兵卒の有志に至る迄各自1本以上携帯する人は少くない實狀ですから、刀匠の任務は益々多事多端となる事でありませう。

5. 日本刀の働き 日本刀が戰場で如何に働いて居るかは、申上げるまでもなく敵味方が接近して白兵戦をするときに、猛然として活躍するのでありまして、此度の戦での武勇傳や功績談は澤山傳へられて居ります。

戰場の第一線では敵と接近して白兵戦になり火花を散らし。而して身を以て敵の根據地を占領して結局の捷戦を完ふするのでありますから、白兵戦は小迫り合ひから、とどの詰りの總決算に敢行せられます。

此度の戦での日本刀の働き振りについて一、二の實例を申上げたいと存じます。

實例1. 日本刀は腰に提げるのが正式であります、いざ決死隊となれば、其のいでたちは晒しの帯を確り締めて日本刀を腰に差し込む、之が一番具合が良い。而して後ろ鉢巻をして勇ましく進撃をします。斯ういふ場合には何うしても勝たなければならぬのですから、思ふ様に支度をしてゆくので昔の武士のやり方がいい。といふのを聞きました。

クリークや河を渡る決死隊の勇士及び炎熱下の豪傑が裸の腰に日本刀をぶつこんで、突撃奮戦を敢行して偉勳を建てたなどは、昔の和冠其儘の姿と膽魂であります。

實例2. 津保鐵道の沿線で敵の夜襲があつた。遠方からポンポンと鐵砲を打て來る。味方は鳴りを靜めて待ち構へて居ると、敵は近くまで、手榴彈を投げてよこす。味方はぢつと辛抱して居て敵の手榴彈が盡きた頃を圖て、手榴彈を放ち、敵の手榴彈距離30m以内に突き入て懐へ飛び込み白兵戦に移た。敵は蜘蛛の子を散らすやうに逃げる。逃げ遅れて塹壕に潜んで居る敵兵は銃劍で突き刺してもよいけれども塹壕は狭いから、やはり日本刀を自由自在に振り廻はして切り倒した。日本刀が長いと塹壕戦で打振ふのに差支へることがある。

そこで日本刀の長さについて考へねばならないであります。馬上の勇士が闘ふには長い刀がよい。昔我が國內の戦

で3尺何寸の大刀を振り翳したこともあります。此の長刀は歩兵になると活用するとき有利なこともありますけれども、拔身で行進するとき等には都合がわるい。手で持て上げると切先が地に着く、肩にすれば後方の戦友が危ない。

それで歩兵用其他一般には2尺3寸が頃合ひとなつてしまひました。尤も之は標準の長さで身長に應じて加減すべきであります。然るに先年の旅順の戦にしても、今回の大陸戦にしても、塹壕やトーチカ内の敵をやつつけるには刀の長さを少しく詰めて、標準長さを2尺1,2寸としたが良からうと多くの實戦者の意見で私共も現場から考察して之がよからうと思ひます。騎兵用には刀身を少しく長くし而も片手打で釣合のよいやうに作るべきであります。

實例 3. 白兵戦が起つた。敵は健氣にも双向て來た味方の一兵卒が銃剣で敵の胸を見事に突き貫いたが引き抜かんとする瞬間に他の敵の青龍刀に倒れた。之を見た將校は日本刀を翳して突進した。敵の青龍刀を受け止め返す刀で一撃の下に敵を袈裟切にした此の時曲りや双毀れが出来た。戦地に於て此の勇敢なる將校の手から渡された日本刀を拜見して感激に堪へなかつたのであります。

此の例で觀ますると多勢の敵に向ふとき、銃剣を以て一人の敵を突き刺し引き抜く隙間を敵に乗ぜられる憂がある。日本刀は數敵に對し撫で切りのできるのみならず、神速微妙なる技のできるのに有利な所があります。

實例 4. 人見少將の陣營で一夕歡待を受ました。私の懇望を諾せられて將軍は某中尉を廳いて日本刀の奮戦の實況を物語らされました。

中尉は自ら功を矜る様にもなく奥ゆかしい態度で次の武勇談をされました。『目前に在る敵を進撃するときの事でありました。射撃せしめうとしたら、右側面から友軍が迫つて來たので打方を止め、自分は眞先に立て突撃した處意外にも敵は膝射の構へで攻勢を採て居るので刀で打ち込まうとすると敵は銃剣で双向た。其銃剣を左手で打拂ひ飛込んで敵の眞向を打割りました。打拂たときの左手の傷は早く癒りましたが、打ち込み過ぎて鏝許で切たものですから此の邊に僅かの双こぼれが出来ました』と話し終て此の豪傑は愛刀を撫して微笑を漏されたのであります。

往昔の武士は鏝元3寸で敵を打つのを勇敢なるものとして非常に尙んで、若し初陣であつたらば大に祝ひ賞讃せられたものであります。

此の實例は刃の着け方に良い教へを示されたものであります。刀の刃のつけ方は刃渡りは全體に及ぶのですけれども鏝許2寸位刃を引いてあります。金鏝から刀身3分の1位までは刃を引いておいてよい様にも思はれますが此の實例に據りますと従來通りののがよいといふことになります。

實例 4. 大場鎮では30餘人切の勇士があつた。杭州では逃げてくる敵兵を待ち伏せて200人を切た。而も刃こぼれがないといふ名刀と豪傑があつたと聞きます。彈丸200發を1人で携帯するのは過大な重荷であります。200餘人を切り倒して尙餘祐綽々たる所から觀ますると、日本刀は實に無盡藏の彈丸、音のない無盡藏の彈丸だといつてよいと思ひます。

實例 5. 日本刀で鐵條網を打截て進撃した實話を陣中の人見將軍から聞きました。實に之は新記録であります。工兵上等兵が支那兵を鐵兜の上から截りつけて腦天から口許まで見事に切り割た話もあります。

斯様な剛業になると日本刀の刃のつけ方に加減を要するのであります。

實例 6. 南京では吾が飛行勇士が敵機を擊墜し之に附いて下降して行て、敵飛行士を短刀で打切り其の腕を取て飛び戻たといふ空中を自在に飛ぶ天狗さんと羅生門で鬼のかひなをもぎとつた、渡部の網とを一緒にした様な豪傑があります。又、暗夜に敵に出遇た場合、「誰だ」とか「友軍か」とか言て敵味方の別を確めておいて切てしまふ。といふ様に意外の所で敵に對し日本刀の武威を輝かして居るのであります。

6. 日本刀の修理 支那の廣大なる地域に亘り吾が多勢の勇將猛兵が奮戦して、至る所に日本刀が活躍し、刀には多少の損傷が出来るのであります。

尤も刀の質が良く、切り所も宜く、切手の腕も良ければ刀は無難でありませうが、激戦になれば一々氣遣て居るわけにはゆきません。

原因はともかく刀の實際に損傷するのを觀ますると、刀身については折れるのが一番よくないので、之は粗製の刀にあるので、修理することができません。

次に刃毀れも多いが是は研き直して實用に供するまでに出来ます。

刀の曲つたのは之を眞直に直す。良い刀は寝さして置くと自然に眞直になつて鞘に収まる様になる。是も日本刀の特徴であるが其科學的説明は遺憾ながら略しておく。



刀の外装については、刀の柄が折れる。之が可なり多いので多くは短い中心の端に當る所から折れる。柄尻が崩れる。柄巻が崩れるの類で、手で持つ部分の壊れるのは刀を運用するのに最も困る痛み方であり、之等は柄を取換へ新しくし又巻換をして修理致します。

其他鏝元が弛んだり、金具が壊れたりしたのを一々修理し直に活用できる迄にするのであります。

軍刀の修理場が極まって布告が出ると軍隊から續々修理刀を搬び込みます。今尙血腥い程のものもあれば、奮戦の痕鮮かなものもある。

實例 7. 一將校は此の關兼定の作刀は能く切れるのに自分ながら驚いた。力戦中に柄に弾丸が當て身體は夫が爲に無難であった。不取敢自分で柄を着けて用ゐて居た。此の刀を修理した人の名を知らせてもらひたい、紀念にしたいからといふのもありました。

直接に其刀を活用した勇士の方々から壯烈なる實況を聞く毎に感激に打たれ、且日本刀の威力を讚嘆せざるを得ないのであります。

昨年9月から修理を始めて今日に至るまでに修理数は3萬餘で其修理に従事した刀匠、研師、外装師の数は延べ1,000餘名に上て居ります。

刀の缺け、柄の毀れることの多いのは大體戦争が激しくて日本刀の威力が揚り、士氣の旺なることを示すものであります。

修理の刀には古刀もあれば新刀もあり、又昭和の現代刀もありまして、現代刀は其約4割位のものであります。

日本刀を造るには種々と流派がありますけれども、其實用方面から概括して觀ますと、日本獨特の正式の方法で精鑲したものは古新刀を通じ一般に好成績を顯はして居ります。

現代刀以前の刀即ち前代刀の内でも多いのは備前傳の刀であります。之は運用に良い恰好であります、が時に軟質に傾くものがあります。

關傳の刀は能く切れる定評があり、實際すばらしい働きを致して居ります。此流の刀は動もすると金質が硬過ぎるものがあります。

相州傳のものは数が少なかったですが、何れも豪壯で實戦に適するものが多いのであります。

山城傳大和傳のものは至て稀でありました。其態姿上品でありまして、高級將校の佩帶するに適するでありませ

う。

粗製略式で日本刀の形にしたものは實戦中に折損することがありますから注意を要します。

戦場へは實用に確かなる日本刀を携帯すべきであります。

7. 現代戦の日本刀 日本刀が製作上世界無比のものとして賞讃せられる武器になりましたのは、我が國昔から主要の武器として使はれ、多くの實戦の經驗を積んで戦闘に適する様に發達して日本の精華となつたからであります。昔とは餘程趣きの異な現代の戦争に於きましては、日本刀を有功に運用し易いやうに益々精銳になり、且作り込み等について追々と改良せられて行くものと思はれます。

現代の戦には巨大なる武器、強烈なる軍器があるに係らず、昔ながらの此の細小なる日本刀が前に述べました様な實力を顯はすことは皇軍の得意とする處でありまして、世界各國の軍隊を通覽して特に異彩を放つものであります。

8. 日本刀の精神的威力 前に申上げましたのは、日本刀が武器として物質的方面即ち道具としての働き振りについてでありましたが、茲に強調致したいのは精神的の方面の働きであります。

實例 8. 戦地で工兵隊の某軍人が愛刀の修理に見えた時の話に軍事動作に工兵の方は日本刀を活用することは少いけれども、帶劔すると何となく氣丈夫で動作が活潑にできるとの事でありました。氣丈夫なといふ氣分は日本刀が興させるので、日本刀の武徳の顯はれであります。

日本刀は身を護り敵を討つ力學的の道具であるのみならず。實に吾等の氣象を勇壯豪健ならしめる精神的の靈力ある靈器であります。

實例 9. 各所の白兵戦で、支那兵は日本刀の煌めくのを見ると、夫れ日本刀と言って逃げるか、居竦むか其恐れ戦慄く態度は能く見受けられるが、尙捕虜兵の感想を聞いても彼等は日本刀の進撃には恐怖の念が起ると自白して居るのであります。

敵の心膽を寒からしめるのは、日本刀が興させるので日本刀の靈力の顯はれであります。夫で日本刀は切らずして多くの敵を威服せしめ、敵の精神を切り殺すといふ偉大な効果を收めて居るのであります。

さうして觀ると劔は1人を敵とするのみならず、大衆の敵を威壓する靈器でありませう。

實例 9. 勇敢なる將校が冴えわたりて氣魄の籠た日本刀

を焔めかして進撃の號令を下せば兵士の元氣は益々旺盛になります。現に御神刀部隊と呼ばれ武勳を赫かしつゝある部隊もあります。

味方に此の底力ある鋭い元氣の出るのは日本刀中心に興るので、之日本刀の氣魄、靈力の顯はれでありませう。それで日本刀は多くの味方兵士の精神を統一して専心大事に當らしめるといふ偉大なる功果を収める靈器であります。

實例 10. 吾等日本人は日本刀の冴えを眺めると、1種の崇高な氣象が湧き出て、すつきりとして鋭い感じが起る。外國人は刀を一つの道具と思つて居ますが、日本刀に對する感じは我々の感じと異て居ります。

嘗て西洋人に日本刀を進呈したとき、受取た當人は、サムライ、ハラキリ等と言つて顔を長くし身振ひしました、之は日本刀を歴史的に連想し恐怖の觀念を呼び興したからであります。

支那兵が目前に日本刀の迫るを見て恐れるのもやはり歴史的の聯想が無意識に起るからと思ひます。併し之は、サムライ、腹切り位の他處事の程度ではなく、もつと深刻な歴史がこびり着いてゐるからでありませう。源平時代から豊臣時代の長い間にかけて、我が邦人が朝鮮、支那、印度方面の沿岸や南洋方面に亘り多くは八幡大菩薩の旗を翻へし、日本刀を振り翳して勇猛な奮闘をやつて、彼等を縮み上らせた彼の和寇は歴史上餘りにも有名であります。當時其和寇の船を八幡船と稱せられて居りましたので、今日でも支那では恐ろしいものの警告に「バハンバハン」と言つて居ります。

今回の支那事變は正々堂々たる正義の日章旗を掲げた膺懲の聖軍でありますから、之に刃向ふ支那兵が一層恐れおのゝくのは當然でありませう。

日本魂を日本刀に宿らせるといふ其信念や、宿た日本魂を日本刀から武徳として發射せしめることは、吾が遠い昔の祖先から養ひ續け來た立派に出來上た日本獨得のもので今日益々此の光輝を發揚せしめつゝあるのは實に吾が祖先からの尊い賜物に外ならないのであります。

此の信念と此の武徳とは一朝一夕に作成することは出來難いでありませう。

技術と人格と勝れた名工でなければ名刀の出來ないといふのは前述のわけであります。尙日本刀に籠る氣魄は刀工の打込む精神ばかりでなく、日本開闢の大昔から今日に至る歴史を通じ我が國土の津々浦々に亘る同胞の満身に漲る

大日本精神の結晶たる我が特有の信念も共に濃縮せられて益々偉功を發揮するものであります。

此の見地から觀て、小學校の國語讀本に栗原氏等の盡力に依り「日本刀」の一課を本年度から新に編入せられたのは、國民に偏く日本刀を理解させ信念を固める上に極めて有意義のことでありませう。

9. 御神勅に基ける日本刀 何れの外國にも刀といふ武器はありますが、とりわけ此の勇健な日本刀、其姿も美しい此の日本刀は日本獨得のもので、之に日本魂を宿らせるのも日本獨得であります。扱つて斯る世界無比なる靈器日本刀が生れた其本源は何處であるかを遠く溯つて考察して觀たいのであります。

之は長くも吾が國を御肇めになつた、天照大神様の御神勅に其源を發するものと存じます。3種の神器は簡單明瞭に大御心を具體的に御示しになつたもので、其中の大御劍は此の武器の威徳を以て國を治め萬里の波濤を開拓せよとの尊い慎重なる意味を含むものと拜察致します。

幾千年以前から樹てられた此の有難い日本の國是は御神勅通りに遵守せられ、實行せられ、代々次々の我が四海同胞が等しく大御劍の御旨を己が心としつゝ常に此の日本刀に守護せられて來たのであります。即ち平和の大御代に在ては降魔の靈劍となつて心の賊を亡ぼし、戦亂の巷に突進しては正義の利劍となつて逆徒を殲滅し以て其運用術の練達妙技を促すに至り、亦其鍛錬の技術も彌々精緻を極むるに至るのであります。

斯の如く鍛冶錬磨せられ、其實用的價値の極致に到達したるものは自ら優秀なる美術的眞價をも發揮せられるのは當然であります。而して此の美術的表現は一面我が國民性の發露とも見るべく、亦到底他國の追従し得ないところであります。

其上之に日本魂の眞髓を打込んで、所謂華も實もある大成功を収むるに至たのは實に我が國體の萬邦に冠絶すると同時に吾々日本國民の誇りとすべき所であります。彼の刀匠が齋戒沐浴して神靈を奉受し鍛造に精進するのは全く深い意味の存するものであります。

日本刀其物と、其神靈とが一體不二となつた尊い我が傳來の靈器が、今日東洋の一大難關を打開するに當て偉大なる威力を顯しつゝあるのは決して偶然ではありません。聽て其宏大なる武徳は赫々と輝き互て全世界の一大平和を齎すでありませう。

吾々は日本刀に對する此の尊い信念を益々強調し、日本刀の精華國粹を益々發揮せしめて國運の興隆に努め、國家永遠の大磐石を祈て止まない次第であります。

終りに拙作を吟じて結論と致したいと存じます。